

概要

○地区の課題

- ・気候変動による海洋環境の変化による、タラやスケソウダラなどの主要魚種の資源量の減少や少子高齢化の影響で後継者不足の深刻化により、地域水産業の衰退が懸念されている。
- ・年間100万人以上の観光客が訪れる道内有数の観光地である「積丹町」や「余市町」に挟まれた立地ながら、町を訪れる観光客は、その1割にも満たない年間10万人弱で、素通りされる町になっている。

○取組目標

- ・海の資質、海の資源を最大限に利用した”遊・食・泊“の取組を地域一体で具現化し、通過型から滞在型観光への転換を行い、水産業を核とした地域再生を図る。



海業の取組概要

○漁港を核とした教育学習の検討推進（泊）

令和5年度に古平漁港内にある老朽化した研修施設（漁港会館）を改修し、一時滞在が可能な施設に整備。また令和5年度から活動を開始した地域おこし協力隊員が地域課題である町内の空き家をリノベーションし、民泊施設「じもっつFURUBIRA」として営業を開始した。これにより、これまで不可能だった漁港を拠点とした滞在型観光が可能となるほか、当該施設を活用した教育学習についても検討推進する。

○観光プログラムの検討推進（遊・泊）

漁港会館や民泊施設を有効活用し、迫力ある水揚げ風景を船上で見学するツアーや産地市場の荷揚げ見学、競り体験ツアー、獲れたての新鮮な魚介類を直ぐに捌いて味わうことができる味覚ツアーなど地域資源を活用した各種観光プログラムを検討推進する。

○地元水産物を活用した地域産品の開発・PR活動（食）

東しゃこたん漁協古平地区青年部や令和7年度開業予定「道の駅ふるびら（仮称）」の指定管理者などと連携して地元水産物を使った新たな地域産品を開発し、ふるさと納税の返礼品や漁協直売所、また道の駅ふるびら（仮称）での販売、その他PR広報活動（パッケージデザインや販売ポスター等）を展開し、地域一体で魅力ある商品の開発を推進する。

効果

○漁港内に整備された研修施設や民泊施設で宿泊体験を行うことで、町内小学生に漁業の苦労や鮮度保持、衛生管理など、水産業の様々な活動をより身近な視点で体験してもらい、水産業の町ふるびら出身としての一生忘れない思い出と自覚を醸成する。

○観光客向けの滞在型観光プログラムへの対応が可能となり、これまで不可能であった早朝出発の漁船に搭乗する体験ツアーや朝競りの体験ツアーが可能となる。

○漁協青年部の取組では、地元水産物の中でも魚価が安いホッケやカレイ、タラなどの魚種に主眼を置き、新たな特産品を開発することでそれらの魚種全体の付加価値を高め、漁家所得が増大する。

○道の駅ふるびら（仮称）指定管理者との取組では、古平町の水産物などを活用した特産品を新たに開発し、地域イベントやSNSの発信力を活用することで、古平町の知名度が向上する。

漁港会館



民泊 じもっつFURUBIRA



協力体制

運営主体：古平町、東しゃこたん漁協  
 協力組織：古平町商工会、古平町観光協会、小樽水産高校など  
 オブザーバー：北海道開発局、北海道後志総合振興局

スケジュール

海業推進協議会設立（R6.4）  
 担当者会議（月1回）  
 海業推進協議会総会（年1回）  
 宿泊、ツアー受入（周年）